朱巨器 编著

日语论文写作教程

RIYU LUNWEN XIEZUO JIAOCHENG

上海大学出版社

日语论文写作教程

朱巨器 编著

上海大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语论文写作教程/朱巨器编著. —上海：上海大学出版社，2005.9

ISBN 7-81058-921-0/H · 124

Ⅰ. 论… Ⅱ. 朱… Ⅲ. 日语－论文－写作－高等学校－教材 Ⅳ. H365

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 095803 号

责任编辑：梁临川

特约审稿：邱根成

封面设计：敏　子

日语论文写作教程

朱巨器　著

上海大学出版社出版发行

(上海市上大路 99 号　邮政编码 200444)

(http://www.shangdapress.com　发行热线 66135112)

出版人：姚铁军

*

南京理工出版信息技术有限公司排版

上海第二教育学院印刷厂印刷　全国新华书店经销

开本 850 × 1 168　1/32　印张 13.75　字数 289 千

2005 年 12 月第一版　2005 年 12 月第一次印刷

ISBN 7-81058-921-0/H · 124

定价：26.00 元

前　言

《日语论文写作教程》是为高等院校日语专业本科四年级以上学生编写的现代日语论文写作教科书，也可供日语专业自学考本科段的考生及指导论文写作的教师参考使用。同时亦可供以日语为职业技能的广大科技工作者参考使用。

一、本教材的特色

本教材应教学需要而编写。在编写过程中，根据课程设置的特点以及毕业论文写作的程序，对本教材的内容做了系统的安排。可以说，系统性是本教材的第一个特色。

本教材与毕业论文写作规则规定的程序相结合，按照规则规定的先后顺序编排了各讲内容。而这个先后顺序又与学生们的写作思路相吻合。本教材原名《论文十讲——日语论文指导要领》，使用二轮后，编者就本教材的使用效果对2000级六十几位学生进行了问卷调查。有的学生在问卷里回答说：《论文十讲》这本教材好像是按照自己的思路来写的，对写作毕业论文帮助很大。可以说，循序渐进的实用性是本教材的第二个特色。

一般来说，人们往往把论文指导课混同于作文课，把毕业论文混同于作文。这是对具有学术论文性质的毕业论文缺乏了解而产生的一种误解。本教材在概论一讲里，就论文的性质、论文与作文的区别、论文与研究报告的区别作了比较分析，使学生们耳目一新，恍然大悟。所以，在上述问卷调查中有学生回答说，通过学习《论文十讲》这本教材，才明白了什么是论文，

现在写起来有依据了。因此，提纲挈领、正本清源是本教材的第三个特色。

本教材在注意充分吸纳国外学者先进的理念和研究成果的同时，亦注意摒弃繁文缛节突出教学需要。尤其是根据我国学生的特点，强调了资料的收集与研究的重要性。本教材用第四、第五两讲着重论述了资料收集与研究的方法，并且明确指导学生资料工作要占毕业论文写作70%的时间，资料工作不到位，就不要急于执笔写作。可以说，资料先行、稳中求胜是本教材的第四个特色。

本教材还根据我国学生的情况，专门用一讲“引用的诸问题”来论述资料与文献引用的问题。这是一般写作教材较少论述的一个内容。我曾经在一本学术期刊上读到一篇文章，该文抱怨现在的学生写毕业论文时抄袭现象严重。我想，这个问题需要教师的正确引导，恐怕还是教师没有讲到位。从现行写作教材很少论述“引用”这一点，便可窥其一斑。因此，本教材专门用一讲来论述了引用的理论问题。可以说，循循善诱、规范行为是本教材的第五个特色。

综上所述，本教材在编写过程中，博采众家之长，吸纳先进理念，以系统论的方法阐述了日语论文的写作理论和方法，具有科学性、针对性和实用性，有助于读者迅速提高写作能力。

二、本教材的内容与教学安排

本教材是应教学改革和课程建设的需要而编写的，是高等学校日语专业本科教材之一。在总体结构上，本教材由十讲（章）构成，每一讲（章）分为三节，每一节又细分为三项，分别论述同一个论题下的三个小论题，故每一讲都有充实的内容。

本书初稿写于2000年8月，作为日语专业四年级的日语论

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.co

文指导课的教科书，在上海大学的外国语学院日语系和成人教育学院日语专业专升本课程试用至今。期间，曾数移其稿。因教学效果良好，获得了学生们积极的评价与肯定。此次出版，根据教学实践中的体会和学生们的建议，并结合日语教学的现状与发展趋势进行了修改与充实。正文后面增加了练习题，练习分思考题与论文选读（含写作练习）两部分。附录部分收录了历届学生的优秀毕业论文、常用日语论文术语等内容。

本教程在课堂教学中所需时数为20—40学时，平均每课为2—4学时。但因各讲内容有所侧重，可根据实际情况作具体安排。课外需要相应的自学时数。

三、本教材的理论依据

在《日语论文写作教程》的编写过程中，编者参考并引用了日本庆应大学教授樱井雅夫编著的『レポート・論文の書き方』、日本大学教授泽田昭夫撰写的『論文の書き方』、『論文のレトリック』、早大出版部编撰的『卒論・ゼミ論の書き方』、以及筑摩书房等刊行的『日本語のレトリック』、『作文の過程』『読書論』、『自己表现—文章をどう書くか』、『考える技術　書く技術』等原版书籍。这些书籍大多是来自教学第一线的教学经验与科研成果，对于编者来说很有参考价值。

我国的《文心雕龙》、《修辞学发凡》、《怎样写教学论文》、《标题与写作》等文章学论著，以及在教学实践中形成的资料和其他汉语论著等中文参考书籍也是编写《日语论文写作教程》的素材与依据之一。

在理论体系上，本书的依据是文章学与语言学；在文本体系上，本书的依据是国家教育部的教学大纲与上海大学有关毕业论文的写作规定，以及编者为日语系编写制定的毕业论文写

作规则；在修辞体系上，本书的依据是学术论文的体裁与一般系统论的方法。

本书编写出版过程中，中国日语教学研究会副会长、上海外国语大学日本文化经济学院院长博士生导师皮细庚教授审阅了书稿提纲，提供了宝贵的意见，给予了积极的肯定与支持。华东师范大学校学术委员会委员外国语学院副院长硕士生导师高宁教授、上海对外贸易学院日语系副教授邱根成博士也给予了积极的支持与肯定。日本专家松仓崇先生阅读了书稿正文。上海大学教材建设基金提供了出版资助。编者在此谨向以上各位教授专家和有关部门表示诚挚的敬意和深切的感谢。

由于编者的水平有限，本书的缺点错误，在所难免。恳切希望各位专家教授、师生读者，垂读有加，不吝指教。

编者

2005年5月

目　次

1．概 論……001
1.1　論文の定義 ……001
1.1.1　論文の定義 ……001
1.1.2　卒論とは何か ……002
1.1.3　卒論の特質 ……004
1.2　論文の種類 ……006
1.2.1　論文の種類と字数 ……006
1.2.2　論文とレポートの区別 ……008
1.2.3　論文と作文の区別……010
1.3　論文の品位……015
1.3.1　論文の品位……015
1.3.2　論文の態度……016
1.3.3　論文の技法……018
練習問題……020

2．問題の選定……023
2.1　問題の場と問題……023
2.1.1　問題選定の基準……023
2.1.2　問題の種類……025

2.1.3 問題の場と問題……027
2.2 論題の確定……031
2.2.1 論題切り出しの手がかり……031
2.2.2 論題の切り出しと細分化……032
2.2.3 論題確定の五条件……036
2.3 論題確定の技術……039
2.3.1 論題確定の技術……039
2.3.2 うまくいくような論題……042
2.3.3 一考を要する論題……043
練習問題……044

3. 研究計画……050
3.1 目次型研究計画……050
3.1.1 見取図の意義……050
3.1.2 見取図の作り方……050
3.1.3 目次型研究計画……054
3.2 スケジュール型研究計画……058
3.2.1 スケジュールの役割……058
3.2.2 六ヶ月研究計画……059
3.2.3 年間研究計画……063
3.3 要約型研究計画……065
3.3.1 要約型研究計画……065
3.3.2 二万字卒論の研究計画……068

3.3.3 よい研究計画とそうでないもの……070
練習問題……074

4. 資料の収集……082
4.1 資料の意義と収集……082
4.1.1 資料の意義……082
4.1.2 図書館の利用と新資料の発見……084
4.1.3 質問調査と実態調査……090
4.2 資料作業の手順……093
4.2.1 資料作業の手順……094
4.2.2 資料の仮読み（総覧）……096
4.2.3 インターネットの利用……097
4.3 情報化時代における資料の収集……099
4.3.1 言語研究法と資料の収集……099
4.3.2 電子メールによる質問調査……101
4.3.3 WWW検索による資料の収集……103
練習問題……105

5. 資料の整理と研究……120
5.1 資料の整理……120
5.1.1 資料の整理……120
5.1.2 資料の構成……122
5.1.3 資料の類別……124

5.2　資料の保管……126
5.2.1　研究カード……126
5.2.2　カード記入の心得……129
5.2.3　その他の情報処理……133
5.3　資料の研究……136
5.3.1　資料の研究……136
5.3.2　資料の評価と実証……137
5.3.3　資料の配分から執筆の準備へ……141
練習問題 ……145

6．論文の執筆……150
6.1　執筆の準備……150
6.1.1　精神的準備……150
6.1.2　アウトラインの構築……151
6.1.3　文の長さ・段落の展開・文章の構成 ……155
6.2　論文の作成……161
6.2.1　論文作成の注意点……161
6.2.2　論文表現の注意点……165
6.2.3　論文の章節立てと標題のつけ方……173
6.3　論文作成の技術……178
6.3.1　綿密さと簡潔さ……179
6.3.2　三分節の方法……181
6.3.3　一覧表の書き方と起承転結法……187

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

練習問題 ……193

7．論文の体裁……202

7.1　前文の構成……202

7.1.1　前文……202

7.1.2　要約……206

7.1.3　図表……213

7.2　本文の構造……214

7.2.1　本文の構造……214

7.2.2　学位論文と雑誌論文……217

7.2.3　論文の見出し番号……222

7.3　参考事項（後文）……229

7.3.1　後文の内容……229

7.3.2　注の位置……230

7.3.3　巻末引用文献リスト作成の約束事……231

練習問題 ……238

8．論理とレトリック……246

8.1　論理の意味……246

8.1.1　論理の意味……246

8.1.2　論理の誤り……247

8.1.3　論証の種類……251

8.2　論証の方法……253

8.2.1 演繹的推論法……253
8.2.2 帰納的推論法……259
8.2.3 ツリー構造と類推法……264
8.2.4 論証の証拠……265
8.3 レトリック……270
8.3.1 五つの構成要素……270
8.3.2 三つのアピール……271
8.3.3 修辞……273
練習問題……274

9. 引用の諸問題……282
9.1 引用の理論……282
9.1.1 テクストとプレテクスト……282
9.1.2 引用と独創……283
9.1.3 引用の思想史と歴史的背景……284
9.2 引用と構造主義……286
9.2.1 引用とポスト構造主義……286
9.2.2 主体に関する概念……287
9.2.3 構造・テクストの再検討……289
9.3 引用の注意点……291
9.3.1 カタロギング・ルール……291
9.3.2 正当な引用……292
9.3.3 引用の注意点……294

練習問題 ……299

10. 文章の推敲……304

10.1　文章の推敲……304

10.1.1　明せきで完璧な文章を書くための条件……304

10.1.2　推敲……305

10.1.3　自分の書いた文章のチェックポイント……309

10.2　論文の提出……312

10.2.1　浄書……312

10.2.2　論文の提出……313

10.2.3　論文の評価基準……314

10.3　答弁……315

10.3.1　答弁の準備……316

10.3.2　レジュメの作り方……318

10.3.3　答弁の評価基準……321

練習問題 ……322

附録

I　優秀な卒業論文 ……328

II　常用論文術語 ……397

III　参考・引用文献……417

后記 ……419

1

概　　論

1.1　論文の定義

この節においては、論文の定義、卒論とは何か、学術論文の特質などについて述べることにする。

1.1.1　論文の定義

まず「論文」の「論」という漢字はどういう意味であろうか。南朝梁の劉勰氏（466～537）が著した《文心雕龍》という名著にこう書いている。「論也者，弥綸群言，而研一理者也。」それによって、論というものは一種の文体であることが分かる。「文」とは、文字である。(注1)

日本語の辞書を引いてみると、「論」という語には、一つの学問のある特定の部分についての組織だった考えという説明もある。そして「論文」という語について次のような解釈が行われている。

とりあえず、『広辞苑』を調べてみよう。

（1）論議する文。（2）理義を論じ極める文。という解釈である。

つぎに、『大辞林』を調べる。『大辞林』には、

（1）　ある物事について理論的な道筋を立てて説かれた文章。

(2)　学術的研究成果を理論的に述べた文章。

という解釈がある。そして、『広辞林』には、

あることについての自分の考えを述べた論議する文。

という解釈がある。

それから、もう一つ『新明解国語辞典』も調べてみよう。それには、

(1)　ある物事について筋道を立てて意見を述べた文章。

(2)　その人の研究の結果をまとめた文章。

などというふうに解釈されている。

この四種類の辞書の説明をまとめてみると、「理義を論じ極める文」「意見」、「理論的な筋道」のある「学術的研究成果」や「自分の考え」及び「その人の研究の結果」などという表現からも分かるように、論文とは、それぞれの学問分野で専門の研究者によって書かれたものである。そしてその著者が自分の研究で得た学術的成果を報告し自分の意見を述べたものであり、それによってその学問分野に新創見と新知見をもたらすものであることが分かる。

また論文の価値とは、あくまでもその内容の論理性と正確性にあることは当然である。内容が優れていれば、文章表現に多少問題があったとしても、その論文の価値はたいして影響を受けないとも言える。

1.1.2　卒論とは何か

理論的には、大学の卒業論文の作成は、大学の本科教学計画を全うし、本科教学の目標を実現させる重要な段階である。大学の人材育成になくてはならぬ重要なステップである。卒業論文は、大学の勉強における最後の段階で、専攻教学が深

まりつつ専攻知識を昇華させる重要な段階でもある。また学生の専攻に関する技能や関連する学科知識、一般的素質や研究と創造の能力をチェックしテストする重要な手段であり、学生の学士学位認定の欠かせぬ重要な基準であり、大学の専攻教学のレベルと質を評価する重要な内容でもある。

卒業論文の基本的性格のひとつは、学術性である。したがって、卒論は学術論文であり、理論的な文章でなければならない。

ここ数年、卒業論文の作成をおろかにし、卒業論文そのものさえ廃止しようとする騒ぎがあった。それは大学教育の内容を空洞化し、大学教育そのものをだめにする動きなので、当然世の中に大いに批判されてしまった。現実的には、卒業論文の作成ができず、就職ができない学生が出ているし、就職しても、給料も低い。のみならず、年金や保険金などさえ低く押さえられたり、就職契約も結ぶことができなくて、生活が不安定な学生も実際にいるのではないか。これらの現実を前にして、卒業論文の作成は、大学の学生の生涯にかかわる重大なものであるといっても、決して過言ではない。

とくに、将来、自己の専門として卒業論文の内容を生かしていこうとする場合、教職や研究者を目標とする場合、卒業論文の質と内容には絶対的な重みを持つ。もちろん、今日では、それにつづく修士論文や博士論文が、さらに大きな比重を持つようになったことはいうまでもないが、卒業論文がその第一前提をなすという重要さには変わりがないであろう。

今日すでに大成した学者や研究者が学生時代の卒論のテーマを、そのままテーマとしている場合は少ないかもしれない。しかしたとえその分野に変化があっても、それは卒論のテーマを土台とした発展であり、少なくとも卒論をばねとした飛

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com